

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2023

課題番号：21K20105

研究課題名（和文）The battle for Marawi City: Analyzing U.S.-China great power rivalry from the local perspective

研究課題名（英文）The battle for Marawi City: Analyzing U.S.-China great power rivalry from the local perspective

研究代表者

Untalan Carmina Yu (Untalan, Carmina)

大阪大学・大学院国際公共政策研究科・招へい研究員

研究者番号：40908787

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000 円

研究成果の概要（和文）：半構造化インタビューと二次データ分析を用いて、マラウィ包囲網に対する政府の対応に関するマラウィ市住民の視点を調査した。収集したデータと文献レビューに基づき、現地の視点を重視する国境を越えた非伝統的な安全保障問題に関する今後の研究にインスピレーションを与える革新的な理論的枠組みを提示した。また、この研究は、国の指導者たちに、地元のアクターを外交政策の有力な情報源として認識するよう動機付けるという点で、外交政策にも示唆を与えるものである。プロジェクトの成果は会議で発表され、学術誌に掲載された。現在、別の学術誌論文が査読中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、国際政治問題の分析において、ローカル・アズ・メソッドと呼ばれる革新的な理論的枠組みを提案し、適用している。本研究は、国際関係における非西洋国家のアクターと、こうした周辺化された国家の地元の人々の重要性を示すことで、グローバルIRの研究に貢献するものである。マラウィ包囲とその余波を現地の視点から検証することで、本研究は意思決定に現地の人々を含めることの重要性を示す。国家間や国家レベルを超えたさらなる研究と政策提言を促すものである。

研究成果の概要（英文）：Semi-structured interviews and secondary data analysis were used to investigate Malawians' perspectives on the government's response to the siege of Malawi. Based on the data collected and the literature review, an innovative theoretical framework was presented to inspire future research on transnational and non-traditional security issues that emphasises local perspectives. The study also has implications for foreign policy in that it motivates national leaders to recognise local actors as a powerful source of information for foreign policy. The project results were presented at a conference and published in an academic journal. Another journal article is currently under peer review.

研究分野：international relations

キーワード：critical IR small state agency local perspective Marawi City great power rivalry

1．研究開始当初の背景

この研究の動機は、アジア太平洋におけるアメリカの覇権と、国際関係学の学問分野では周辺のとされるミンダナオ島などの地域との関係に関する研究者の博士論文にあった。それは、2017年のISに連動した包囲攻撃後のマラウィ市の復興が、国内政策レベルでも外交政策レベルでも物議を醸すようになったときに生まれた。アメリカと中国の「大国間対立」が、ドゥテルテ政権の独立した外交政策の下で、フィリピンの外交関係に影響を及ぼしたときでもあった。このような背景から、私は地域政治と国際政治の関係、そして地域アクターと実践が理論と実践において国際関係にどのような影響を与えうるかを研究する気になった。

2．研究の目的

ローカルな視点は、国際関係を再考する上でどのように役立つのだろうか？第一に、国家中心のアプローチが支配的な学問分野において、「周縁」の重要性を認める理論的・概念的枠組みを構築することである。その目的は、非西洋的・非国家的アクターの重要性を認識しようとする学問的要請が急増していることに貢献することである。もうひとつは、この枠組みを用いて、国家政府（マニラ）と大国（アメリカと中国）との関係におけるミンダナオ島の状況を考察することである。米国と中国に関する現地の視点に焦点を当て、現地の見解を実証的に検証し、外交政策に関する見解の重複と相違を認めることの重要性を示すことを目的としている。

3．研究の方法

調査は、マラウィ市の住民との15回の半構造化インタビューと、新聞の論評、政策報告書、分析などの二次データの分析を組み合わせで行った。インタビュー対象者は、複数の意見が得られるよう、さまざまなバックグラウンドを持つ人々である。1) 米国と中国の現地におけるプレゼンスについての見解、2) マラウィ包囲戦とその余波に対する国の対応についての見解、3) 外交政策における現地の視点を認識することの重要性についての見解である。COVID-19の大流行時には渡航が制限されたため、PIは現地在住の研究者を雇い、彼女の代わりにインタビューを実施する必要があった。

4．研究成果

研究結果はその目標に沿ったものであった。まず、「ローカル・アズ・メソッド」と呼ばれる理論的枠組みを構築した。これは、州レベルの分析を超えることを提案している。第二に、研究の実証的な部分では、マラウィ市の地元の人々が、特に国家政府と比較した場合、対外関係を解釈するために異なるレンズを利用していることが示された。マラウィ包囲網によって、フィリピンは米中の大国間対立の中心に位置づけられた。しかし、これは現地の人々がこの地域の復興に関

する審議に積極的に参加することを意味しなかった。マラウィからの教訓に基づき、本研究は、テロ、環境、人権といった国境を越えた非伝統的な安全保障問題に対処する際に、地元の視点を取り入れることの重要性を提起している。理論的枠組みと事例研究は、「周辺部」が「中心部」を占める理由と方法に関する今後の研究や外交政策提言の動機付けとなるだろう。

このプロジェクトの成果は学術誌に掲載され、会議で発表された。この報告書を執筆している時点では、学術誌の論文を検討中であり、調査結果に基づく研究企画書が作成される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 UNTALAN Carmina Yu	4. 巻 14
2. 論文標題 Philippine-US Alliance in Transition: Towards Polycentric Relations?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 East Asian Policy	6. 最初と最後の頁 58～71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1142/S1793930522000216	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Untalan, Carmina Yu
2. 発表標題 The Battle for Marawi City: Analysing U.S.-China great power rivalry from the local perspective
3. 学会等名 American Political Science Association Asia Pacific Conference（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Untalan, Carmina Yu (discussant)
2. 発表標題 Mindanao as Method:
3. 学会等名 IAFOR Research Center in Collaboration with Mindanao State University（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Untalan, Carmina Yu
2. 発表標題 Marawi Siege and the limits of pursuing independent foreign policy amidst US-China Great Power Rivalry
3. 学会等名 Mindanao Peace Education Conference（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------